

# 館山で戦争遺跡シンポ

第19回戦争遺跡保存  
全国シンポジウム館山  
大会(戦争遺跡保存全  
国ネットワーク主催、  
NPO安房文化遺産フ  
ォーラム共催、館山市  
市観光協会など後援)  
が5日、館山市の県南  
総文化ホールを主会場  
に3日間の大会の幕を



## 若者の参加へ 知恵出し合う 市民団体や研究者ら

開けた。戦争体験者が  
少なくなる中、全国の  
遺跡保存にかかわる市  
民団体や研究者が若い  
世代に保存運動をどう  
つなげるか知恵を出し  
合う機会となった。  
館山大会実行委員会  
の委員長でもある地元  
の語り部「むくら貝」  
代表の松苗禮子さん  
(79)が88年前、米国か  
ら安房地区に贈られた  
「青い目の人形」たち  
がたどった運命を「語  
り」の形で紹介して開  
幕。金丸謙一館山市長  
の歓迎の言葉に続き、  
在日2世で韓国・光州  
市立美術館名誉館長の  
河正雄氏が「二つの  
祖国を生きた」と題し  
て記念講演した。

主催者の全国ネット  
共同代表、十菱駿武・  
山梨学院大名誉教授は  
戦後70年を迎えた戦跡  
保存について基調報  
告。この1年で文化財  
などへの登録が29件増  
えたものの、東京都武  
蔵野市の中島飛行機武  
蔵製作所の倉庫が、保  
存運動にもかかわらず  
7月に取り壊されるな  
ど、貴重な遺跡を失っ  
た事例も報告された。  
この日のメインは沖  
縄と高知県で保存活動  
を続ける人たちによる  
パネルディスカッション。  
沖縄県南風原町で  
旧沖縄陸軍病院南風原  
壕の保存活動に取り組  
む沖縄国際大の吉浜忍  
教授、高知県香南市で  
近隣市と連携して戦争  
遺跡の保存活動をして  
いる同市の松村信博主  
監調査員、館山市商工  
観光課の池田英真主任  
学芸員がそれぞれの取  
り組みを披露した。

南風原町では町史の  
編集に20代、30代の若  
者を過半数加えた実績  
を報告。いずれも戦争  
体験者が減り、若い人  
たちに活動に参加して  
もらうための工夫をし  
ている様子が伝わっ  
た。

6日は3分科会で研  
究テーマを報告する。  
特別分科会では地元の  
安房文化遺産フォーラ

ム(愛沢伸雄代表)が  
米テキサス軍事博物館  
から取り寄せた終戦直  
後の米陸軍の館山上陸  
の模様を撮影した映像  
を再現。当時の館山を  
知る体験者らに出席を  
願い、立体的に当時の  
模様を再現する。  
【中島章隆】

### 戦跡保存シンポ 館山大会が閉幕

アピール採択

館山市で開かれてい  
た第19回戦争遺跡保存  
全国シンポジウム館山  
大会は7日、市周辺に  
残る戦争遺跡を2コー  
スに分かれてバスで視  
察し、3日間の日程を  
終了。「戦争遺跡と文  
化財を活かしたまちづ  
くりをすすめるよう」と  
の大会アピールを採択  
して閉幕した。来年の  
20回大会は松代大本営  
地下壕がある長野市で  
開かれる。  
シンポジウムには県  
内外の研究者ら400  
人が参加した。ホスト  
役を務めたNPO法人  
安房文化遺産フォーラ  
ムの愛沢伸雄代表は  
「70年前に館山に軍政  
が敷かれた時期に合わ  
せて9月に開催したた  
めの、参加できない学校  
の先生もいたが、多く  
の戦争経験者の証言を  
引き出すこともでき  
た」と成果を強調した。  
【中島章隆】

毎日新聞千葉版  
2015.9.8付



パネルディスカッションで「戦跡ツアー」の模様を  
報告する倉南市の松村さん(中央)

毎日新聞千葉版 2015.9.6付